

家のベランダの手すりに止まった赤トンボを発見、急いでカメラを持ち出し撮った瞬間、トンボは逃げて行った。毎年陽があるときは日中数匹止まっていたが、今年はその後一匹も現れなかった。

さいたま市に引っ越してきた当時は、青空につるんでいるトンボや単独飛行のトンボがいっぱい飛んでいて、その数に驚いたことがあった。

先に書いたように今ではほとんど見かけなくなった。近くの田んぼを散歩しても時々スーと飛んで行くトンボに合うくらいになってしまいましたが、いったいどこに行ってしまったのだろうか。残念です。

今日（11/3）NHKの番組の「人間よ！昆虫に学べ」をテーマに、「香川照之の昆虫すごいぜ！」にて赤とんぼのことで環境の異変を伝える熱血授業をおこなっていた。



18.10.25

夕焼小焼の 赤とんぼ
 負われて見たのは いつの日か
 十五で姐や（ねえや）は 嫁に行き
 お里のたよりも 絶えはてた

山の畑の 桑の実を
 小籠（こかご）に摘んだは まぼろしか
 夕焼小焼の 赤とんぼ
 とまっているよ 竿の先

歌詞の意味

「赤とんぼ」の歌詞は、作詞者・三木露風の故郷である兵庫県揖保郡龍野町（現；たつの市）で過ごした幼少期の情景に基づいている。三木露風が5歳の時に両親が離婚。母親とは生き別れとなり、祖父の元で子守り奉公の女中（姐や）に面倒を見てもらっていた。

女中の姐や（お姉さん）に背負われて「夕焼小焼の 赤とんぼ」を見た幼い頃。その姐やもやがてお嫁に行き、姐やからの手紙（便り）も送られてこなくなってしまった。

「赤とんぼ 歌詞童謡・唱歌」より 抜粋



2015.10.15

21011.6 植木